

## 13. 筋骨格系および結合組織の疾患

### 文献

Nakajima M, Inoue M, Itoi M, et al. Difference in Clinical Effect between Deep and Superficial Acupuncture Needle Insertion for Neck-shoulder Pain: a Randomized Controlled Clinical Trial Pilot Study. *日本温泉気候物理医学会雑誌* 2015; 78(3): 216-227. 医中誌 Web ID: 2016061226

#### 1. 目的

慢性頸肩部痛に対する鍼の刺入深度の違いによる臨床効果の比較

#### 2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

#### 3. セッティング

明治鍼灸大学附属病院整形外科、京都、日本

#### 4. 参加者

6カ月以上頸肩部痛を有する外来患者 20名

#### 5. 介入

Arm 1: 浅刺群 10名 (男性 2名、女性 8名、平均年齢 67.2±12.8歳)。ステンレス製 ディスポーザブル鍼 (0.18×40mm、セイリン社製) を、頸肩部の自覚的 maximum 痛み部位 (最大 10カ所) に 5mm 以下の深度まで刺入し、2Hz の雀啄を施し 20分間置鍼。

Arm 2: 深刺群 10名 (男性 3名、女性 7名、平均年齢 68.7±13.1歳)。ステンレス製 ディスポーザブル鍼 (0.18×40mm、セイリン社製) を、頸肩部の自覚的 maximum 痛み部位 (最大 10カ所) に 15-20mm の深度まで刺入し、2Hz の雀啄を施し 20分間置鍼。

#### 6. 主なアウトカム評価項目

痛みに対する Visual analogue scale (VAS)、日本語版 Neck Disability Index (NDI)。

#### 7. 主な結果

VAS より、前後比較では両群とも有意に改善し ( $P < 0.05$ )、群間比較では有意差が認められなかった。VAS、NDI の経時的変化パターンでは両群間に交互作用を認め、深刺群で有意な改善を示した ( $P < 0.0001$ )。

#### 8. 結論

慢性頸肩部痛に対する鍼治療は深部まで刺入する方が有効である。

#### 9. 鍼灸医学的言及

記載なし。

#### 10. 論文中の安全性評価

両群ともに有害事象は発生しなかったとの記載あり。

#### 11. Abstractor のコメント

本研究は慢性頸肩部痛に対する鍼治療の有効性が刺入深度によって異なること、つまりは深刺の方がより有効である可能性を示唆するものであり、鍼灸臨床上の治療方針決定に大きく影響を与えると思われる。また本文中では先行研究の結果から、膝痛に対する鍼治療では浅刺の方が有効であることを記述しており、病態によって有効な刺入深度が変化することを明らかにしている。また脱落例無く本研究を遂行されたことも高く評価される。ただし、本文中でも考察されているように、無治療コントロール群が設定されていないために、疾病の自然経過による症状改善と介入による改善が比較できなかったことが残念である。今後はそれらの検討も踏まえた追試が行われることを期待する。

#### 12. Abstractor and date

保坂政嘉、大川祐世 2016.10.06